



東京女子医科大学は、吉岡弥生の苦闘により、明治33年、日本における最初の女医専門の養成機関、東京女医学校として出発し、東京女子医科大学を経て、戦後、大学に昇格した。明治から昭和に及ぶ70年の歴史は、創設者吉岡弥生の道一筋の信念の歴史である。今は、昔の授業風景とは比較にならない各種の充実した教室、実験室等が新校舎に完備している。2階にある図書館も独特の設計で静かで明るい。東京女子医科大学は付属機関も多彩である。

まず伝統ある付属病院。ここには三神内科（女子医専時代の卒業生で現付属病院長の三神美和教授）のほかに産婦人科、糖尿病科と特色ある科が揃っている。荒川区尾久町にある付属第2病院は、昭和5年、女子医専の学生たちが無料診療を行なったのが縁で開設され、都内でもベッド数の少ないこの地で貴重な存在である。

またわが国最初の心臓専門の病院、日本心臓血圧研究所は昭和30年に創設された。ここでは人工心肺を用いた榊原任教授の心臓手術が行なわれている。10歳未満の先天性心臓疾患の子供たちを収容した小児病棟、突然死から人命を守る狭心症心筋梗塞センター（CCU）も独特の施設である。新装なった神経精神科では、従来のショック療法よりも薬物療法に重点を置き、患者の社会復帰に努力している。最も新しく誕生した消化器病、早期ガンセンター。教授たちは個室を持たず、常に大部屋において中山恒明教授を中心に、患者の病状について緊密迅速な意見の交換を行なっている。心研との合同カンファレンスも定期的に開かれている

女子医大独特の学位に臨床課程を6年間研修した者に授与する医療練士制度があり、一般医師にも門戸を開いている。また、患者本位の創設以来の「至誠の精神」に貫かれたこれらの付属病院では、検査結果と治療方針がその日の内にわかるシステムがとられている。

記録
16ミリ
カラー／28分

■企画
東京女子医科大学

スタッフ
■製作
村山英治
■演出
金子精吾
■撮影
金山富男
■照明
波田実男
■編集
沼崎梅子
■音楽
浜坂福夫
■解説
榎村治子

